

南木曾町文化財台帳			
番 号	6 1	区 分	町指定文化財
種 別	有形文化財	管 理 者	長延寺
名 称	蘭の観音堂 (観音堂1棟)		
指定年月日	平成23年 7 月12日		
所 在 地	南木曾町吾妻(上段)		
概 要			
<p>【指定しようとする文化財の概要】</p> <p>観音堂は蘭の長延寺本堂の一段下の墓地との間にある。建築は、棟札木札などにより遅くとも延宝4年(1676)までに建てられたと推察され、築350年前後の建物と推察される。間口二間、奥行二間の切妻造り、鉄板葺き、妻入りで一間の向拝(こうはい、ごはい)が付いている。内部の壁天井には様々な絵が描かれているが、剥離や摩耗が大きい。</p> <p>特徴としては、向拝が素朴で鬘(しかみ)彫りが施されているが、これは寛文から延宝期(1661～1680)に木曾の寺社建築に多く見られるものであるのと、虹梁(こうりょう)の絵様(えよう)の若葉模様が鳥のような形になっている点で、これは延宝3年(1675)に建てられている大桑村須原にある鹿島神社などにもある独特のものである。このことから、この観音堂が寛文から延宝期に建てられたことはほぼ間違いない。</p>			
<p>【指定の理由】</p> <p>本建築は、江戸時代前期の木曾地域の各村にあった仏堂(ぶつどう)の様子をそのまま伝えており、当時の仏堂建築の様子や移り変わりを知る上で貴重な建築である。又、地域の人々の愛着も深く蘭地区を代表する文化財でもある。</p>			
<p>【附随意見】</p> <p>観音堂の傍らに聳える杉は周囲5m40cm(胸高)の大木で、大きさからしてこの観音堂が建てられた時代より古いものと推測される。古くから観音堂の目印として、また人によっては信仰の対象として地域に愛着を持たれる巨木であるが、今後詳細な調査により樹齢や生育状態などを明確にして文化財としての位置付けを定めていく必要がある。</p>			

